

令和5年度(2023度)
熊本市子どもの未来応援基金助成団体
活動報告書

目 次

1. 熊本市こどもの未来応援基金について

- (1) 助成概要 1
- (2) 基金への寄附について 2
- (3) ご支援頂いた皆様 2

2. 活動報告

(1) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）

- 子育て支援サークル・くまもと 3
- ユニバーサル親子柔道教室 5
- ベイベー・マミー・サロン 8

(2) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（企画枠）

- 熊本食育の会 9
- 白川小学校親児の会 11
- ここサポ 13
- NP0 法人子育て支援ワーカーズペペペペらん 15
- Team 延壽院 17
- NP0 法人せいしとらんし熊本 19
- ひご Pecs サークル 21
- たけみやいもほりファミリー会 23
- 山東小学校 PTA 25
- 保育者の子育て塾 27
- NP0 法人こころサポート熊本 29
- NP0 法人コロボックル・プロジェクト 30
- office38 Wind Bell 32
- 特定非営利活動法人教育支援プロジェクトマスターズ熊本 32
- 植木寺子屋山東塾運営委員会 32
- 植木寺子屋田底塾 32

(3) こども食堂に関する活動

- 食の駅のぐち 33
- 白山校区社会福祉協議会 34

子どもが生きられる世界	35
桜木東食堂陽だまり	37
ポピンズ熊本	39
Yell つながるカフェ	40
熊本市西区中島校区こども食堂まんまる	42
みんなの食堂	44
ouchi 食堂	46
楡木子ども地域食堂なごみ	47
おひさま子ども食堂	48
託麻南校区社会福祉協議会	50
NPO 法人寺子屋カフェくまもと	51
一般社団法人多世代交流スペースミモザ	53
地域アフタースクール KANAERU	53
きずな	53
くまもと相談所	53
尾ノ上コミュニティ食堂陽だまりの樹	54
縁側サロン竹ちゃんち	54
NPO 法人熊本 YWCA なかよしクラブ	54

(4) フードバンクに関する活動

フードバンク熊本	55
TSUDOU ネットワーク	55

1. 熊本市こどもの未来応援基金について

「熊本市こどもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市こどもの未来応援基金は、平成6年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担うこどもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成31年(2019年)4月から、こどもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市こどもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、こども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

(1) 助成概要

○広く全般に子育てや児童を支援する活動

対象事業	1 地域における子育て支援活動 2 児童の健全育成を目的とする活動 3 障がいを持つ児童を支援する活動 4 ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 5 父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額2万円）
助成額	・スタートアップ枠：設立後3年目までの団体・個人 初年度5万円、次年度5万円 ・企画枠：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限10万円

○こども食堂に関する活動

対象事業	1 食事の提供を通し、全てのこどもが気軽に立ち寄れるこどもの居場所づくりを行う活動（開設・運営補助枠） 2 1のこどもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動（拡充枠）
助成要件	1 熊本市内で開設しているもの又は開設するもの 2 開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 3 責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを1名以上配置すること 4 3人以上で構成されていること 5 継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 6 こどもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと 7 定款・会則等を備えていること
対象経費	報償費、需用費（食料費含む）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営補助枠は上限総額2万円）

助成額	・運営補助枠：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年 4～12 回 5 万円 年 13～18 回 7 万円 年 19～24 回 10 万円 年 25 回以上 15 万円 ・開設枠：上限 5 万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※1 団体 1 回限り申請可 ※運営補助枠と併用可 ・拡充枠：上限 5 万円 ※1 団体 1 回限り申請可 ※運営補助枠と併用可
-----	--

○フードバンク枠

対象事業	企業や一般家庭等から無償で食料の提供を受け、こどもやこどもの居場所づくりを行う活動団体に対し無償で食料を提供する活動
助成要件	1. 熊本市内で開設しているもの又は開設するもの 2. 特定非営利活動法人、社会福祉法人、公益財団法人、公益社団法人、一般社団法人、消費生活協同組合または農業協同組合のほか、運営委員会がふさわしいと認める団体 3. 開設時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 4. 責任者とは別に、活動を補助等ができるスタッフを 1 名以上配置すること 5. 3 人以上で構成されていること 6. 継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 7. 定款・会則等を備えていること
対象経費	需要費（食料費は除く）、燃料光熱水費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費

(2) 基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」・「楽天ふるさと納税」での申し込み

・「ふるさとチョイス」

<https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100>

・「楽天ふるさと納税」

https://www.rakuten.ne.jp/gold/f431001-kumamoto/?s-id=furusato_pc_area-kumamoto_f431001-kumamoto



②こども政策課へ寄附採納願いを提出

下記の寄附採納願いをこども政策課へ提出後、届いた納付書を用いて、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にて振込み。

(3) ご支援頂いた皆様

○令和 5 年度

計 11,256 件、計 150,317 千円

地方卸売市場熊本東部青果株式会社、株式会社リアルト・ハーツ、三和リース株式会社
医療法人佐藤会、三和リース株式会社、株式会社坂本、高校 0B 連合会、明治安田生命保険相互会社、株式会社七草堂、有限会社福德開発、株式会社北電子、株式会社サポートシステム、株式会社コスモホーム、株式会社新日本エネックス、株式会社東洋、株式会社アグリック、個人

子育て支援サークル・くまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ペアレント・トレーニング」と「子どものタイプ別接し方講座」を使って、子どもとの好ましい関わり方を学ぶ講座を開催し、日常の子育ての困り事に活用することで不安が減り楽しく子育てができるように支援すると共に仲間づくりや、安心してお話ができる居場所作りを目的に活動を始めました。



重点的に取り組んだこと/成果

○子育て中の方、子どもに関わる方が集まり大江公民館で講座を月2回 全12回実施

○講座内容は、ペアレント・トレーニング7回、子どものタイプ別講座4回、茶話会1回

○子どもさんの事、家庭の事、ご自身の事個別相談実施

○成果（参加者の声）

- ・子どもの行動に感情的になってうまくいかなかったのが、子どもの行動の前後を観察し、習った事を実践することで客観視できて子どもも変化してきた
- ・子どもに対して冷静に対応できることが増えた
- ・自分のタイプと子どものタイプが分かった事で今まで理解できなかった子どもの言動が理解でき楽になった
- ・子どもがお手伝いしようとする気持ちが大きくなった
- ・かんしゃくの回数が減った
- ・講座を受けた事で自分の気持ちが落ち着き、子どもの精神にも良い影響がありそうと思った
- ・先生や受講生の方と話す中で自分の事を肯定的に考えられる事が少し増えた
- ・心に余裕を持って子どもと接する事ができるようになった
- ・大きな声でいつも怒っていたがうまくいかなかった。なんでうまくいかないのか理由が分かったのが良かった
- ・タイプを知った事で職場の人に対しても相手のタイプに合わせて接する事ができるようになった
- ・あまり怒鳴らなくなった
- ・家の中が平和になった。笑顔が増えた
- ・子どもにすぐに口出ししていたが少し見守れるようになった
- ・子どもがお母さん“大好き”と言ってくれる事が増えた

○講座を聞くだけではなく、講座内で参加者どうしでロールプレイをし、家に帰って実践された事で、子どもや参加者ご自身が変化していく体験をしていただけたと思います。

○個別相談を行った事で、子どもや家庭の事だけではなく、参加者ご自身が悩んでいる事に寄り添う事ができました。

○今回は講座を始めて2年目ですが前年度受講生（第1期生）の方は「子育てサポートセミナー」全12回の講座修了後も2～3か月に1回 受講生から依頼があり10名程度集まり講座をしています。ご希望があれば引き続き交流を大事にしていきたい思います。



課題/解決に向けての取り組み

子ども連れで参加できる環境作りを考えていきたい。

今後の展開

令和6年6月頃に第3期生

子育てサポートセミナー（「ペアレント・トレーニングと子どものタイプ別接し方講座」）

今回も全12回コースで実施します。子どもとの好ましい関わり方を学ぶと共に仲間づくりや、安心してお話する居場所作りに取り組んでいきます。

連携団体

（株）メンタルサポート研究所グループ

熊本市教育委員会（後援）

問い合わせ

		 or 
perseus.992424@gmail.com	090-9490-2188 (担当者 藤吉)	

ユニバーサル親子柔道教室

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけ

柔道の創設者、嘉納治五郎師範の教えに「精力善用」「自他共栄」があります。「精力善用」：心と身体の持つすべての力をつかって、柔道だけでなく、社会のため、みんなのために使いましょう。「自他共栄」：思いやりの心、感謝の心、信頼し合う心、助け合う心をもって、自分一人だけでなく、みんなと共に栄える世の中をつくりましょう。この精神は、柔道においても、日常生活においても、ユニバーサルにつながると、私は捉えました。「運動が上手」、「運動が苦手」に関係なく、障がい、年齢、性別に関係なく、「柔道は楽しそうだな」、「柔道をやってみたいな」と思う人が誰でも柔道の体験ができ、柔道を楽しめるきっかけの場所を作りたいとの思いから、【ユニバーサル親子柔道教室】を始めました。

活動概要

令和5年度は、全5回の教室を開催しました。令和4年度に引き続き、安全に転ぶことを中心に、柔道の動きを取り入れたプログラムで構成しました。プログラムは、発達段階、障がいのある・なしに関係なく、年齢、性別に関係なく、初心者でも楽しく体を動かせるような雰囲気づくりと指導を心がけました。柔道着がなくても参加できます。熊本武道館の柔道場全面を使って、広々と楽しく活動しました。

～ご協力くださった先生方の紹介～

〈指導者〉 馬場 孝夫 速水 頼子 山田 勝子 塚田 誠尚 福島 清文 釜田 安寛
岩本 泉

〈心理カウンセラー・公認心理師〉 西村 由美子

〈熊武会〉 森田 由紀子 釘島 良蔵 田島 恒男 井上 眞照 田村 公寛
折尾 玲奈

重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこと

- ① 「ほめる」こと、子どもたちの発達段階に応じた指導
- ② 子どもたちに役割を持ってもらうこと
- ③ 参加者の交流

成果

- ① 柔道には、日常生活であまり経験することのない動き（運動）があります。「できること」「できないこと」の経験を、親子で取り組みながら一緒に楽しく味わって頂けたと思います。本教室では、心理カウンセラーの先生のご協力を頂いております。心理カウンセラーの先生のアドバイスを取り入れて全体の合理的配慮に繋がっています。個々の子どもたちの発達段階によっては、「今は難しい」運動もあります。指導者は子どもたちの状況を見ながら、「今できていること」に子どもたち自身が気づき認められるように、「よくできたね」「すごいね」とたくさん「ほめる」ことを心がけました。このことで、参加くださった親子が「お互いのよいところ」に気づきやすくなったのではないかと思います。
- ② 本年度は、昨年度に続きご参加くださった親子が数組ありました。プログラムの中で、号令やお手本などの役割を子どもたちにお願いすると、買って出てくれました。子どもたちが主体的に活躍できる場面が持てるようになりました。
- ③ 本年度よりコロナは5類感染症に位置付けられました。昨年度は実施できなかった参加者同士の交流も含めたプログラムを実施することができました。



受け身の練習



しっぽとりゲーム



ほふく前進 だるまさんがころんだ



抑え込みの練習

課題/解決に向けての取り組み

課題

- ① 昨年度から継続してくださる参加者のためのプログラムの工夫
- ② 柔道を始めたいと思う子どもたちを受け入れてもらえる少年クラブチームとの連携
- ③ 子育てに関する悩み・相談の受入れ

解決に向けての取り組み

- ① 安全な転び方のプログラムは残しつつ、ステップアップしたプログラムを検討していきます。
- ② 本年度より、連携いただけるチームが1チーム持てました。協力・連携体制を広げたいと思います。
- ③ 令和5年度の教室では、子育て・教育に関する悩み・相談がありました。心理カウンセラーの先生とお話をされることで、安心されようです。教室修了後も学校の様子など連絡をくださいます。柔道だけではなく、子育て支援の場として利用いただけるような雰囲気を作っていきます。

本教室のでは、心理カウンセラーの先生に実施頂いた〈教室に関するアンケート〉では、家族関係に良好な変化をもたらしたことが示されていました。

今後の展開

親子に寄り添いながら、「運動が上手」、「運動が苦手」に関係なく、障がい、年齢、性別に関係なく、ひとり一人にやさしい柔道、楽しい柔道が出来るユニバーサルな教室を目指しています。親子で楽しく体を動かしながらスキンシップが図れる場、子育て世代の交流の場として活用していただければと思います。

連携団体

・ 熊武会（フリーサークル） ・ 熊本学習支援センター ・ 柔友会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

	(担当者氏名)	 or 
ma.ma.ma.judo@gmail.com	おりお れな	

団体名	ベビー・マミー・サロン
活動を始めのきっかけ	実施回数・20回 384名（子ども165名・大人219名） 赤ちゃんのふれあい遊び・赤ちゃん競争・寝返り はいはい・よちよち・体重測定・ベビーマッサージ 育児相談等 保護者のクレイ足湯・知育ヨガ・助産婦相談・リンンケア・ おうち相談・ハンドマッサージ・マナー講座 ママ会・ワークショップ等
活動概要	
重点的に取り組んだこと	何度も来ていただくことで、お子様の成長と一緒に 見守ることができた。 成長の喜びや日々抱えている悩みを共有しうることができた。 熊本市の公式ラインでの配信を依頼して、配信を見たとの予約 が多くなった。
成果	
今後の課題・展開	悩みを聞くだけでなく、専門家を講師として呼び直接的なサ ポートもできるよう働きかけたい。
連携団体	

団体名 熊本食育の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

食は命、体は食べ物でできている。健康に生きるためにはとても重要な言葉です。健康で生きる、そのためには正しい情報を知って、栄養バランスの取れた食生活を送ることです。そこで食の現状と問題点、栄養バランスの大切さや正しい食生活の提案をするために活動を始めました。特に乳幼児期の親子の関係が大切なので、子育て世代を中心に、生活習慣の見直しなど。はなまるクッキングを通してお伝えしています。会員は食育指導士の資格を持ち活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこと

① はなまるクッキング

クッキングの後はメニューに合わせた内容で食育コーナーを実施。
たんぱく質の重要性、不足しがちなビタミン、ミネラルのこと、食品添加物のこと、トランス脂肪酸との付き合い方など 10～15 分間で資料映像などを使い実施している。

② ミニミニクッキング

焼き肉のたれ、シフォンケーキなど。
メニューを 1 品にしているので短時間ででき子育て世代が参加しやすい。

③ 味噌作り

味噌作りを通して「ご飯とみそ汁」を提案。

④ 夏休みキッズクッキング（対象年齢は年中さんから、小学生まで）

保護者とは離れて、こどもたちだけでごはんのみそ汁、目玉焼きを作った。
食品添加物だけでできるジュース作りの実験をし、甘いもののとり過ぎは体調を悪くするなど、紙芝居を使い子どもたちと保護者に知ってもらった。

成果

キッズクッキングでは子供さんが自宅でも積極的に料理に取り組んだり、お手伝いをしているとの報告がある。
参加者のアンケートからは食生活の大切さ生活習慣、乳幼児期の親子の関わりなどの大切さを理解し、生活改善がみられる。

課題/解決に向けての取り組み

会場は田迎西地域コミュニティセンターで実施しているが、コミュニティセンターの利用者も多く使用できる日が限られているので、他の会場での開催も視野に入れて食育の会の紹介にも取り組んでいきたいと思う。若い方のお魚離れが進んでいるので、今後、魚料理をメニューにとり入れていく必要性を感じた。
キッズクッキングは現在、年 1 回の開催だが、参加者からの要望もあり、回数を増やす検討をしている。

今後の展開

子育て中の方に役立つ食育の会を計画し、食育出前講座なども考え、
「安心、安全、そして簡単で美味しく栄養たっぷり」をテーマに食の大切さと正しい食の情報をお伝えしていく。

連携団体

NPO 法人日本食育協会、NPO 法人福島食育協会

		 or 
kyky19562015hhyik@yahoo.co.jp	090-5742-1520 横山久美子 (担当者氏名)	

はなまるクッキング



恵方巻きの作り方を皆さんで見えて作っていきます。
一人1本巻く体験をします。

夏休みキッズクッキング



お米を計るところから始め、味噌汁も作ります。
お米を炊き、目玉焼き、味噌汁、とみんなで協力して作ります。

味噌作り



初めてみそを作る人が、
大豆、麴、塩だけでできることに感動されます。
同時に栄養強化味噌（大豆たんぱく入り）も作ります。

白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

本会は、PTA活動・学校行事等のバックアップ、地域イベント等にも協力して支援体制を構築してきた。ここ3年は、コロナの影響により当初の活動計画の変更を余儀なくされたが、本年度は、コロナの5類移行もあり、体験型イベントである夏の「ゴムボートレース」や秋の「魚のつかみどり」を学校や消防団等の協力も得ながら、主催した。

これらに併せて、夏には「水でっぼう大会」、秋には「プレイランド」を実施し、学校内の空き地を活用した「じゃがいもの植え付け・収穫体験」の管理運営にも取り組んだ。

また地域の「コミュニセンター秋まつり」を共催や出展を行い、地域活動に積極的に参加するとともに小学校の新校舎移転や樹木伐採作業等に協力することで、子供たちが安心して活動できるよう環境づくりに貢献している。



ゴムボートレース(7/30)



水でっぼう大会(7/30)



魚のつかみどり(10/22)



プレイランド(10/22)



コミュニティーセンター秋まつり(9/24)



ジャガイモ収穫体験(6/4)

重点的に取り組んだこと/成果

イベント活動の円滑化と会員の負担軽減を両立するため、活動前にズームによる役員会議を実施し、運営内容やスタッフ参加者等の確認はラインを使うことで各会員と情報を共有。

「ゴムボートレース」では、学校側と協議して学校のプールを使用し、児童が安心安全に参加できるように「参加児童へのアームリング準備」「保護者同伴の義務付け」「プール水中でのスタッフによる補助」「プールの減水」等を実施。またチームによるリレー対抗戦として、子供同士の協力や競争意識を促した。「魚のつかみどり」では、体験用に大量の水が必要なることから、消防団に協力を要請。また体験資材（ヤマメ）やつかみどり用水槽にコストがかかるため、参加者から負担金を徴収するとともにコンパネとブルーシートを活用して水槽用として簡易プールを自主制作した。加えて、体験参加者が一度に来ての事故等の発生リスクをさけるため、学年ごとに参加者を整理し、体験者の人数を制限しながら、運営した。「コミュニティセンター秋まつり」では、コロナによる地域イベントの中止が続き、出展（焼きそば等）に伴う経験者が減少し運営手順がわからない会員が多くなったため、イベント開始前に経験者による具体的手順等のレクチャーを行い、その後は、スタッフが交代しながら実施することで、今後、運営手順を継承できる経験者を拡充した。

活動を通じて、子どもたちが工夫や協力を重ねながら楽しんでいる姿がみられ、学校や保護者からも非常に好評に受入れられた。また運営者として、主催や協力を行うことで、学校や地域からの信頼を得るばかりでなく、コロナで希薄になった保護者間相互の親睦を深めるきっかけになった。さらに活動に伴う運営手順を経験することで、地域活動や学校行事をさせる担い手として、本会の存在感が増している。

課題/解決に向けての取り組み

コロナによるイベント等の中止により、保護者間での交流が希薄化し、イベント等の運営を支える担い手が少なくなり、活動を運営する体制の弱体化が懸念される。本年度は、コロナ後の活動再開の元年となったので、保護者、学校や地域と情報共有しながら、学校や地域活動をバックアップできる体制づくりを強化していく。

今後の展開

活動内容のノウハウを知る会員が増えてきたので、会員間や学校や地域とも情報共有や発信を行いながら、ノウハウの継承や会員の拡充し、支援体制を強化していきたい。

連携団体

白川小PTA、白川小学校、白川校区消防団、白川自治協議会

		 or 
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 (西田伸介)	

ここサポ (みんなの居場所うちらんち よかよか)



活動を始めるきっかけ/活動概要

これまで3年間地域の公民館で開催してきましたが、自由にきて安心して過ごすことのできる“地域の縁側”を商店街に作ることで、より地域と連携し商店街を身近に感じることができるよう場所を商店街に移し活動を始めました。地域の子どもや親だけでなく、誰もが利用しやすい居場所を作ることを目的に「出会い」「性教育」「原体験」を柱に様々な体験と、幅広い年齢の方々との交流を月に2回“みんなの居場所うちらんち よかよか”を実施しました。

重点的に取り組んだこと/成果

今年から商店街に場所を移したこともあり、商店街の中のオープンな環境で、通る方々ものぞいていけるような場所を意識して開催しました。「ちょっと寄ってみた」「帰りに寄ってみた」などの声も聞かれ、地域の場所としての認識にも繋がっている様子がありました。

活動を知ってもらうきっかけづくりとして、体験型のイベント活動を多く取り入れました。毎年協力してくださる講師の方々以外にも、地域の方々がメインに企画、当日の準備、運営を協力してくださり、子ども達の笑顔を通してやりがいも感じてくださったのではないかと思います。

原体験でお世話になっている保育園では、毎回参加している子ども達が率先して準備を手伝い、受付を担当してくれるなど、楽しみにしている様子や役割を自分で考える姿もありました。

性教育では「多様な性」に取り組み、当事者との交流を通して日頃感じている疑問や思い込みについて話し合うことができました。話を聞いてみたい、想いを共有したいなどの参加者の方にも来ていただくことができ、視野を広げる時間になったと感じました。

毎回のように来てくださる地域の方、「いつもありがとうね」と声を掛けてくださる地域の方々に支えられて活動できていたと感じます。



<夏祭り>



<アート>



<SDGs ボードゲーム>



<竹あかり>

課題/解決に向けての取り組み

- ・運営メンバーが少なく、企画運営が難しい状況にある。
- ・企画と実際にできる規模との照らし合わせの検討が必要
- ・開催することで精いっぱい、商店街との連携ができなかった。
- ・ボランティアで手伝ってくださる地域の方々の協力をお願いしていく。
- ・高校生など学生のメンバーを増やしていきたい。

今後の展開

運営メンバーが、活動していくのが難しい状況

ボランティアも含め、今後の活動について話し合っていきたい

連携団体

せいしとらんし熊本、逢桜の里、志成館高等学院、カトリア保育園、TSUDOU.net、フードバンク熊本、泉ヶ丘・若葉校区子育て支援ネットワーク



<遊び場>

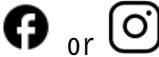


<遊び場>



<ハロウィン>

問い合わせ

		
	090-7153-4009 (松元かおり)	Instagram: uchiranchi2020 Facebook: @cocosapo2020

NP0 法人子育て支援ワーカーズペペペらん

活動を始めるきっかけ/活動概要

子ども達を取り巻く環境が電子メディアなどによって変化するなか、乳幼児からの言葉環境が悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期からの環境で左右されます。

子育てに関わる大人が乳幼児期からの言葉環境を良いものとし、子どもの聞く力を育み、社会性、協調性のある子どもの育成をサポートすることを目的とします。

重点的に取り組んだこと/成果

育児でがんばっているお母さんに、少しでもゆっくりとお子さんと楽しんでもらえるように取り組みました。また、「わらべうた」はお家で過ごす時の手助けになる事から、繰り返し唄い、触れてあげることなどを丁寧にお伝えしました。

コロナが五類に移行になり、気軽に外に出かける事ができるようになりました。母さんが笑顔で参加してもらえた事が良かった。



課題/解決に向けての取り組み

少子化も感じながら、早くから働きに出るお母さんも多いと思います。家での子育ても一人で悩み、外に出かけることが出来ないお母さんを、なんとか参加してもらえるように、SNSを発信していくことが大事だと思います。

今後の展開

今後はこの活動を周知してもらうために、対面でのお知らせを中心に、細やかな伝え方をしていきたいと思います。子育てで見落とされている事を他団体とも連携しながら進めることを検討していく。

子育ての情報誌への投稿や、若いお母さん方によく使われている SNS 発信などを頑張っていく。

連携団体

なし

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
mail@pepepeperan.com	椎葉 信子 (担当者氏名)	



『Team 延壽院』～地域コミュニティサポート寺子屋～

活動を始めるきっかけ/活動概要

結婚をし子育てを経験していく中で、同じ子育て世代が、共働きや離婚、仕事によるストレス等で子育てに不安を持ち、また核家族化が増え、中々周りに頼ることが難しい家庭を多く見てきました。そこで、困っている家庭に寄り添い、地域で子育てのフォローが出来、健康かつ安全に子供を見守る、または健全育成の手助けが出来る事が、子供、親、地域にとって、よりよい社会になる、まずは近所に寄り添える場や人がいることを伝えられることを目的とし、活動を始めるきっかけになり現在活動を行っております。

子育てに関して、子供の居場所作りや、親子のふれあい、おじいちゃんおばあちゃんと孫世代との交流、家庭の相談や児童預かり・送迎、傾聴活動をふまえた様々なイベントを行っております。

重点的に取り組んだこと/成果

ひとり親家庭や、子育てに困難な親子に寄り添い、大切な事、親としてもっと伝えたいことをコチラの企画の中心におきイベントを行った。

また、すべての企画に防災～災害に備える～というキーワードを載せ、普段とは違う非日常体験を行うことで、「大変な時ってワガママな心になりやすいんだ、その心のせいで自分自身を傷つけたり相手を傷つけたり。変に我慢してしまうと自分も相手もキツイ。だから今、笑って大事なことを学んでいこう」を各講師も皆に伝え、相手を思いやる事の大切さ、大変さを学んでもらいました。

課題/解決に向けての取り組み

各イベントで参加費を大きく徴収せずに行っているが、もっと多くの人の目に情報を伝えられるよう、案内告知を増やすこと。また寄り添う企画を多く開催出来るよう、会場への自己負担を減らし、衛生面等に関してもより必要備品を備え、良い空間を用意していきたい。

今後の展開

地域の中にある団体として、毎年恒例のイベントにし、子ども食堂や各ボランティア、食生活改善推進員や防災士の方々と連携を取れるようにする。それによってこれからもあり続ける、そしてこの校区、地域は心も体も豊かな処となることを目指しております。

連携団体

花園まちづくりセンター、NPO 法人くまもと防災士会、人吉コミュニティ事務局にじのおと、火の国サランダーズ、熊本市食生活改善推進員、熊本ファミリーサポート、健軍リバイタライズ、本妙寺こども園、川尻お寺 de フェスタ実行委員会。

問い合わせ

		 or 
Rrbdr755@ybb.ne.jp	090-2967-9375 (担当者氏名)ハマダ ギコウ	『Team 延壽院』 enjuinkumamoto





NPO 法人せいしとらんし熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

「一人親の為、異性の子どもへ性器の洗い方をどう教えて良いかわからない」といった親や、「どこまで洗ってあげれば良いかわからない。ちんちんの皮は剥いてあげた方が良い?」「正しく教えてあげているか不安(おしっこの拭き方等)」といった相談が、子を持つ親から多く寄せられる。産後の助産師訪問や検診の際にも、性器に関する質問はしづらく、ネットには様々な情報があり、どれが正しいのかもわからず、誰にも相談できずモヤモヤしているとの現状を知り、そんな親の不安解消の為に、「お風呂に貼れる正しい性器の洗い方のポスター」、「トイレに貼れる正しいトイレマナーのポスター」を作製、配布した。



申込みチラシ

活用方法・アンケートチラシ

重点的に取り組んだこと/成果

言葉の説明だけでは理解しづらい小さな子どもが視覚的に理解できる様、イラストとひらがなのみで構成し、お風呂ポスターは防水・トイレポスターは破れにくい紙にし、各所へ貼って子ども達が自分で都度確認できる様にした。

【トイレポスター】

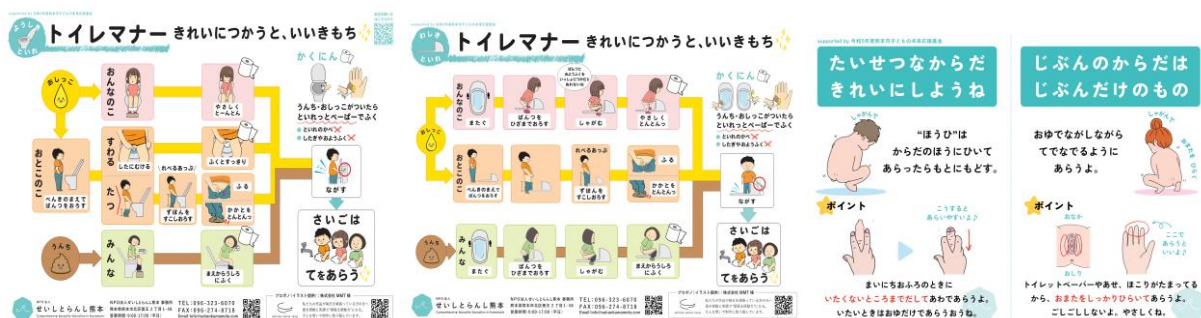
当法人の認定講師で開発チームを発足し、元保育士・現役ママ・養護教諭・子どもの支援に携わっている講師からも様々な意見を出し合い構成した。

子ども達がトイレで思わずやりがちな事も【かくにん】として書き、排尿・排便の仕方だけではなく、公共施設でトイレを利用する際に気を付けるべきポイントも盛り込んでいる。また、洋式トイレだけでなく和式トイレのポスターも作製し、希望者は自身で QR コードを読み込みデータを印刷していただける様にしたが、小学校の養護教諭から『和式トイレの仕方を知らない子が増えている為、とても嬉しい』と言葉を頂いた。

【お風呂ポスター】

男の子と女の子の性器の洗い方を言葉やイラストでわかりやすく説明し、親子で一緒に性器の洗い方の確認もでき、すでに 1 人で入浴している子も、自身が性器を正しく洗えていたかの確認をする事ができる。また、ポスターの真ん中に切り込み線を描いておく事で、家庭で必要ではない部分を切り取って活用できる様に配慮した。保護者から『家で、ポスターを見

ながら性教育を行った。お風呂でばっちり洗う姿があり、とても嬉しかった～。視覚的な情報、効果大ですね～！』との感想をいただいた。性器の洗い方やトイレマナーを知る為だけでなく、家庭で『性』について話すキッカケになれた事が非常に嬉しく感じた。



A3 サイズ 破れにくい加工 洋式トイレの右上 QR コードにてデータ保存 A4 サイズ 防水加工

課題/解決に向けての取り組み

ポスターセットを配布する際、アンケートチラシを同封し、子を持つ親の『性』に関する困り事の抽出を行った。当初は 500 名程の回答があるかと想定していたが、実際は 20 名の回答であった。回答者への特典を設けるなど、もっと回答したくなる工夫が必要であった。ただ、僅か 20 名の回答ではあるが、『子ども(異性)の性器の洗い方がわからない』と答えた人が 11 名おり、『異性の子どものトイレマナーの伝え方がわからない』4 名、『トイレマナーを伝えたいは良いものの、合っているのかわからない』8 名と、今回のポスターの有用性がアンケートにて証明された。

今回いただいた意見を、今後の活動の参考にしたい。

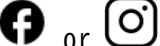
今後の展開

助成活動中から、『熊本市以外は貰えないの?』『販売しないの?』といった声が多く聞かれた。

また、とある市の健康増進課にて数百部購入したい(保健師の家庭訪問の際に配布)といった話もあり、助成終了後は、トイレポスター2 種類・お風呂ポスターの 3 枚をセットにし、販売しようと検討中である。

また、当法人の認定講師が親子向けに性教育を行う際に、資料として活用し言葉では伝えづらい部分が補えるようになる。

問い合わせ(未記載の項目があっても構いません)

		
info@seirankumamoto.com	096-323-6070 (廣岡)	Instagram: seishitoranshi_k Fb: NPO 法人せいしとらんし熊本

ひでPECSサークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

子供たちが自分の気持ちを伝えるのが難しい場合、『コミュニケーションは楽しい』と感じるような教育や支援方法を実践します。手話などとは異なり、誰にでもわかりやすい絵カードを使うことで、多くの人とコミュニケーションが取れるようになります。無発語の子供たちに対するトレーニングでは、発語が促進される効果が高いと報告されています。また、子供たちの中には問題行動を示すことがよくありますが、相手に理解される伝え方を学ぶことで、落ち着きを取り戻し、穏やかに過ごせるようになります。そして、問題解決のスキルを身につけることで、自信がつき、意欲も高まります。「さらに、子供たちが取り組みやすく、保護者も導入しやすい iPad を使用した Pecs 指導を行っています。」



重点的に取り組んだこと/成果

今年度は、コロナがおさまったこともあり、私たちは少人数での対面での活動を主に行いました。Pecs を使用したコミュニケーショントレーニングの一環として、自分の困りごとを伝える練習を行っています。例えば、タブレットで遊んでいる際に操作がうまくいかない場合、「手伝って」という絵カードを使って困りごとを相手に伝えることができるようになりました。また、Pecs を初めて使い始めた子供たちには、新しい Pecs ブックと必要な絵カードを提供し、コミュニケーションに活用しています。絵カードのバリエーションを増やすことで、コミュニケーションの幅が広がり、伝える喜びや満足感を得られるようです。これにより、家族もその効果を実感しているようです。

また、活動報告や情報提供のために 2 か月に 1 回程度の会報発行も行いました。また、LINE のお友達登録をしていただくことで、勉強会の情報や絵カードを簡単に作成できるツールの情報などを共有しました。



↑ 絵カードを手渡して
自分の困り感を伝える



↑ Pecs で欲しいおもちゃを伝える

課題/解決に向けての取り組み

- 絵カード交換式コミュニケーションに誤解があること。代替コミュニケーションを使うと話せなくなると勘違いしている方が多いです。Pecs ではコミュニケーションの初めの一歩、人とかかわることから教えていくので自発的なコミュニケーションを育てます。今後も活動の中で正しい認識をしていただけるように頑張りたいと思います。
- 「Pecs」という知名度がないこと。一般的に、「話す」ことは自然と身に付くように感じていらっしゃる方が多いようです。療育の必要なお子さんは特にコミュニケーションが苦手なお子さんが多いです。私たちの活動を広く知っていただき、コミュニケーションの楽しさや、伝わる安心感を実感していただきたいです。

今後の展開

- 私たちの目標は、発達障害のある方々が、自分らしく社会で生活できる環境を築くことです。私たちは障害の有無に関わらず、共生が実現できる社会を目指しています。SNS やその他の情報発信手段を通じて、私たちの使命と活動内容を広く知ってもらえるよう努めています。
- コミュニケーション力を高める機会を提供し、ZOOM を活用した勉強会だけでなく、対面で子供たちと一緒に活動を体験していただき、その成果を保護者に実感してもらい、また保護者にも実践してもらえる場を提供することで、より実践的なワークショップを企画したいと考えています。
- 私たちの取り組みが多くの方々に知られ支持されるよう、障害のある方々と共に、より豊かな社会を築いていくために、様々な機会を通じて情報発信を行っていきます。

連携団体

- ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社
兵庫県尼崎市武庫之荘 1-5-14 サンプラザ中野 401 号室
- NPO 法人就労特化型支援団トリニティ
熊本県上益城郡御船町辺田見 361-4

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
pecs@malu2kucing.com	096-282-6035 (担当者氏名：大塚)	

たけみやいもほりファミリー会



活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・熊本地震が起こった時、地域の皆さんが不安で日々を過ごす中、日頃から交流していることがとても大切であることを痛感しました。また、新型コロナの影響でちょっとした交流もできにくくなっていた状況でしたが、今は屋外でいろいろなイベントができるようになりました。
- ・近所には比較的たくさん子どもたちが住んでいます。戸建てや、いくつかのアパートなどに越してきた世帯があります。しかも、小学生以下の子どもたちがたくさんいますが、周囲の私たちも含めお互いに声を掛け合うことができにくい今の世の中です。
- ・そこで、子どもたちとその家族と一緒に集まって楽しくイモ掘りができたら、親交も深まりいざという時にも声を掛け助け合うことができると考えました。
- ・具体的な活動は、春のジャガイモ掘りと秋のサツマイモ掘りを近所の親子が集まって楽しく行います。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・私は、この地域に以前より住んでいますが、ご近所の子育て世代の方とは挨拶を交わす程度でした。そこで、イモ掘り会の趣旨を説明し、気軽に参加していただくことにしました。
- ・初めは、どのような方が参加するのか遠慮する方もいらっしゃいましたが、お知り合いの家族も誘って参加していただくようになりました。
- ・回を重ねると、「参加したいと思っていたが、誘いの声を掛けてもらって嬉しかった。」というお声もいただき、少しずつ交流の輪が広がるのが良かったと思います。
- ・また、今の子どもたちは土に触れる機会が少ないのではないかと思います。いもほりを通して土に触れてもらいたいと思います。それで、いもの栽培は完全に無農薬で行っています。





課題/解決に向けての取り組み

- ・近所には賃貸アパートが数軒あり、子育て世代の世帯が住んでいるのか把握が十分にできていません。そのため、イモ掘り会への参加の声を全てにできていない可能性があります。
- ・隣は声かけがあったが、自分の所はないという不平等感がないように、メンバーで情報共有し近隣の子育て中のご家庭に声かけを心がけて行いたいと思います。
- ・近年、病気などの影響からサツマイモのツルがとても入手困難でした。来年度も入手できるかは、その状況次第となるので、その際は代替作物の収穫も検討する必要があるかもしれません。

今後の展開

- ・現在のやり方を継続して参加者を増やしていくことと、収穫したイモを使って料理をして交流できると良いかと思います。

連携団体

- ・今のところ連携する団体はありませんが、子育て世代だけでなくご近所の高齢者世帯にもご参加を呼びかけると地域全体の交流ができるかもしれません。

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	☎	f or 📷
	090-9575-3832 (担当者氏名) 八谷	

山東小学校PTA

活動を始めるきっかけ/活動概要

山東校区は、土砂災害警戒区域や浸水想定区域が少なく、地理的には災害のリスクが低い地域と言える。反面、各家庭の防災に対する意識が低い。あわせて、ここ数年の急速な住宅地の開発とコロナ禍が重なり、子どもや保護者の交流、世代間の交流、住民との交流が十分に行えていない。このため、防災をテーマに子どもから大人まで一緒に考えることで、地域の防災力と地域コミュニティの強化を図るとともに、子どもが地域で育つ環境の醸成を目的に活動を計画した。

【活動内容】

①防災研修1（ぼうさい運動会）

防災〇×クイズ、災害伝言リレー、救命リレー、Live119 実演

②防災研修2（防災体験会）

VR 消火体験、消防車展示、給水車体験、EV 自動車実演、消防団の活動の説明・体験

③防災キャンプ

防災食作り、防災グッズ作り、ナイトハイク、避難所体験

重点的に取り組んだこと/成果

① ぼうさい運動会

校区自治協議会の協力で避難所運営委員会、民生委員の参加があり、子ども達や保護者と顔見知りになれた。運動会形式で行い災害時に必要となる協力する力、コミュニケーションの大事さを体感。また、災害時に使える手当や救命方法、対処方法を学ぶことができた。普段交流することない方々との交流もでき、山東地域の子ども達の様子を避難所運営委員会や地域の方々にも知っていただけた。参加した子どもからは「避難するときは自分も協力したい。」という感想も聞けた。



② 防災体験会



実際に災害時に活躍する車両の展示や体験で非常時の対処方法を学んだ。VR 消火体験では、よりリアルに疑似体験をできた。給水体験では、非常時の給水車からの給水体験をした。水の重さを感じた。消防団からは、熊本地震の時に植木中央公園で災害物資の仕分けなどを行ったことや地域の安全のために活動していることを子ども達に教えてもらい、地域の安全を地域で守っていることを伝えてもらった。子どもや保護者との距離を縮めることができた。大きくなったら自分も消防団に入る言う子どももいた。



VR 消火体験



校区消防団講座



③ 防災キャンプ

非常時の生活を疑似体験。普段の生活でも活用できる防災食を作り、ローリングストックしながら日常が非常時の備えにつながることを学ぶことができた。

ナイトハイクは、熊本地震が深夜に行ったことを教訓に、夜間の避難について実際に感じてもらった。出発前には、災害時に避難する場合の注意点を伝えた。こども達は歩きながら「この木は大丈夫かな。」「この塀が怖い。」「どこを歩いたらいいかな。」と実際に避難するときに想像しながら歩き、災害時の安全な避難について考えた。

避難体験としてテント（コミセン内）や車中泊等を行い、避難時のシミュレーションを行った。



防災食作り



防災グッズ
づくり



ナイトハイク



避難所体験



今回のイベントで、地域の協力を得ることでこども達や保護者と地域の距離がより近くなった。

保護者も災害時の対処方法を学ぶことができ、防災に対する意識の向上が図れた。

課題/解決に向けての取り組み

実施時間が長かったのは反省点。主催者も参加者も実施時間が短いほうが負担が軽く、気軽にできると思う。今後イベントをするときの実施計画に反映させたい。

今後の展開

日ごろからこどもたちが地域で顔が見える関係をつくるのがいざ災害が起こったときに役に立つと感じた。今後も学校や地域と協力しながら、こどもたちの健全な育成のために活動をしていきたい。

連携団体

山東小学校、山東校区自治協議会、山東校区防災連絡会、植木寺子屋山東塾、山東校区社会福祉協議会、山東校区民生児童委員、山東校区女性の会
問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	☎	f or 📷
		📷 @santo_es_pta

保育者の子育て塾

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施・・・35回 912（子ども 538名・大人 374名）

わらべ歌やリズム遊びを各家庭でも実践してくださる親が多い

プチセミナーで理論的に発達の道筋を学ぶという理想的な循環が構築されつつある

0歳からのリズム遊びは就園前の親子向け、ガキ大将育て塾は幼稚園や保育園児小学生向け
というように遊びの内容も変化しながら対応し楽しみながら子どもの心とカラダ、脳みそ育てをしていく発達を促しながら親子で楽しむ居場所づくりができたと思う。



重点的に取り組んだこと/成果

自分が成長したいと感じている意識が高い方が多い、これからの時代は社会から与えられるばかりではなく、自ら実践して動けるような「人づくり」が必要と考えているが親のマインドを育てる居場所となっていることは成果である。

『子育ては親育て、本当は自分育て』という言葉がプチセミナーの合言葉の一つになっているが、目の前の子どもの気になる姿を対処法だけで解決するのではなく、自分の在り方や親自身の心の育ちに目を向けられるような共通認識ができつつある。

親の態度や言葉がどれほど子供に影響を与えるかという話を理解でき、意識して自分自身の心を整えていこうとする姿が見られるようになった。特にプチセミナーでは保護者同士が安心して自分の心の内を語れる質の高い学びの居場所となっており、いろんな角度から子どもを育む土壌づくりをしているところである。



活動を始めるきっかけ活動概要

全国的にも家族規模が縮小し、地域との関りが減ってきている社会で育児に対する孤立傾向がある。保育や学校の現場でも対応に苦慮しているという話が現場からよく聞かれる。そしてそれに親の関わりの問題が大きく関係しているといわれているが、親もどのように接したらいいのかが対応がわからず不安を抱えているという現状がある。その不安の中子育てしているお母さんへ子どもとの正しい関わり方を伝えるとともに、親同士の繋がりを作る場も同時に目指す。公認心理師がリーダーとなり指導し、親子の心の支援をすすめるグループとして関わっていく活動を行う。

連携団体

(株)メンタルサポート研究所

NPO こころサポート熊本

子どもと笑顔で過ごすためのプログラム

重点的に取り組んだこと 成果

不登校、引きこもり、心の病、発達の問題、DVの問題、貧困など、どれもその中で生きる人にとっては厳しい環境や状況でもあり切実な問題です。今はそうではないとしても「どうしたら幸せに生きていけるのか?」「どうしたら大切な人が笑顔になるのか?」これを常に考え、良い支援を実現していくことを目指します。お互いに学び成長する集い、人の拠り所となれることを心から願い活動することは、この先必要とされていることでもあると考えています。「子どもと笑顔で過ごすためのプログラム」では、子どもに接するときの間違った常識に気づき、効果的な子どもの気持ちの受け止め方を学ぶことで子育ての不安が軽減されます。お母さんの心が安定してくると、子供たちの自己肯定感も高まり心からの笑顔が増えてきます。

課題 解決に向けての取り組み

プログラムは、月1~2回の9か月間。この全部の回に参加が難しい方が多かったので、参加しやすいような会場を追加して実施することとした。
今後は、単発のプログラムを望む声も多く聞かれたので、どの回でも参加できるように告知していきたい。

今後の展開

子育て中の多くの方に「子どもと笑顔で過ごすプログラム」に参加して頂き、心のことの正しい知識と問題行動の効果的な関わり方を伝えていきたい。
お母さんの笑顔は子どもの幸せ。一人でも多くのお母さんが幸せで心からの笑顔であふれますように。この願いを胸に、今後も一つの地域にとどまらず、親同士の繋がりを作る場としても活動を広げていくことを目指す。



電子メール



TWITTER ハンドル



電話



LINKEDIN URL

NPO法人コロボックル・プロジェクト



活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・自然や動物が大好きで、個性豊かで（発達障がいほか）やんちゃな子どもたちと、南阿蘇の里山で自然体験活動や訓練された犬たちとの触れ合いで、生きもの共生（社会）をめざす（やんちゃキャンプ）
- ・夏（7/22・23、スタッフ4人）スタッフ研修
- 秋（10/21・22、子ども6人・大人6人：3家族、スタッフ10人、訓練犬4頭）
- 冬（12/16・17、子ども2人・大人2人：1家族、スタッフ8人、訓練犬3頭）カイハラ動物病院保養所周辺で実施。



重点的に取り組んだこと/成果

① 「生きもの共生教育」の発展

- ・子どもたちや家族、教育・心理・動物福祉・木工の専門家が参加し、豊かな自然体験・制作活動、犬とのふれあい活動を通して、子ども主体で親子共に育つ活動ができた。
- ・生物多様性豊かな南阿蘇で、犬（しつけインストラクター、ハンドラー）とのふれあい活動で、犬への優しい対応が進むとともに、犬の人への怯えが少なくなった。
- ・泊だけでなくデイ参加も可能にすることで、新規参加者があったり、臨機応変に対応したりできた。



② 安全・安心に活動できる対応

- ・感染予防のための対応を徹底することで、With コロナ時代のキャンプを充実できた。



課題/解決に向けての取り組み

- ・「生きもの共生教育」を充実させるための、プログラム作成やスタッフの充実
- ・生物多様性の恵みを体験できる活動内容の精選：夏秋の実施、川・森での活動検討、制作活動の再検討



今後の展開

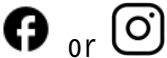
- ・「生きもの共生教育」の発展
： Post O@コロナ時代のキャンプ、創発的カリキュラムの充実



連携団体

- ・動物介在教育チームカイハラ
- ・相互支援の会スマイルハート

問い合わせ

		 or
Kaibara29@yahoo.co.jp	090-2962-8668 (担当者 甲斐原)	https://www.facebook.com/colobokkuru/ LINE(gan2954)

団体名	office38 Wind Bell	特定非営利活動法人 教育支援プロジェクトマstars熊本	植木寺子屋山東塾 運営委員会	植木寺子屋田底塾
活動を始めるきっかけ	実施回数・43回 838名（子ども721名・大人117名）	実施・7回 125名（子ども48名・大人77名） 参加者・・・子育て中の保護者・子育てが一段落した 保護者・教育関係者 活動内容・・・講座名「親のカスキルアップセミナー＆親子体験 型」会場またはZOOMによる 講座と野外での体験活動 子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から 学び、子育て中の保護者どうしが 繋がり、互いの悩みや不安など共有したり、日ごろの子育ての 工夫などを情報交換などすることで自分を認めて保護者自身が 自己肯定感を高め「良好な親子関係」と「笑顔の日々」を目的 に活動を行った。	実施・4回 253名（子ども131名・大人122名） 6月開塾会 7月そうめん流し&水遊び 10月芋ほり会 12月餅 つき会 子ども達が地域の先輩方から、学校では習わないものづくり体 験や農業、食育体験等により 地域の文化や歴史を学び、世代間交流を深めることにより地域 全体で子どもたちの成長を見守る環境ができていると感じてい る。	実施・1回 80名（子ども30名・大人50名） 植木温泉の竹灯籠点灯イベントに併せて親子でスカイ ランタンを揚げた
活動概要				
重点的に取り組んだこと	○制服リユース ライン、Instagramでの友達登録などにより、口コミ等で リユース他学用品の問い合わせが増えている、また、地域の回 覧板、行政の方々のライン登録による情報の提供等により問い 合わせ等も増えている。 ○学習支援 地域の回覧板に載せていただいたこともあり、また 高校生に支援員をお願いしたところ相乗効果でいい 影響がでており若者の意識向上にも繋がっている。	成果 野外での活動は身近な自然の恵みを体験できたと好評でした。 座学では、参加者同士が会場やオンラインでも交流すること で、互いの子育てを話すことで日常の悩みや困ったことなどを 分かち合い「良好な親子関係」のきっかけや、これからの子育 てに役立てるような場を作ることができた。また、会員外の地 域ボランティアのサポートや託児の手伝い、学生のボランティ アなど多くのスタッフに恵まれスムーズな進行ができた。	子ども達や保護者はもちろん地域の高齢者、 高校生、大学生にも輪を広げ 子ども達の健全な成長と住みよい街づくりにつなげていきた い。	冬休み最初の土曜で親子の思い出作りとクリスマスイ ベントになった。 また、作業等では校区自治協議会・校区社会福祉協議 会当の協力があり世代間の交流が深まった。宿泊客や 通行人など多数の参加者があり植木温泉の魅力発信と 活性化にもつながった
成果				
今後の課題・展開	制服リユースは補修などなるべくきれい な状態でお届けしたい。 学習支援も当初は月一回だったが、 希望者が増え週一回にしたことで、 子どもも次を担う若者も、今後の地域を支える担い手が育って きている事に手ごたえを感じている。 活動が継続できるよう頑張りたい。			
連携団体	地域の自治会	(株)カウンセリングルームら・らぽーと (株)ハート・ラボ・ジャパン・熊本市愛鳥教育研究会		田底校区自治協議会 田底校区社会福祉協議会 田底地区活性化推進協議会

食の駅のぐち

活動を始めるときかけ/活動概要

子どもの貧困対策や孤食防止、地域住民の繋がりづくりや、一人親世帯の支援、生活困窮者の貧困対策を目的とし活動している。

重点的に取り組んだこと/成果



- ・食事の提供
- ・食育活動
- ・悩み事相談
- ・学習支援



課題/解決に向けての取り組み

子ども達や地域みなさんが気軽に参加できるように、第2・第4日曜日に子どもは無料（高校生以上300円）で開催している。

今後の展開

子ども達が気軽に集い、あたたかい食事を提供する居場所づくりに継続して取り組む。

連携団体

協賛企業による広報（案内掲示）



問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	☎096-274-8774 （担当者氏名）鷹枝 洋子	

白山こども食堂（白山校区社会福祉協議会）

活動を始めるきっかけ/活動概要

コロナが明けても、これまで孤食・黙食を強いられてきたこども達に、楽しく笑顔で食べることの楽しさや美味しさ、満足感を思い出してもらおうという一念で、月に一度だけみんなで楽しく食事しようと呼びかけました。



重点的に取り組んだこと/成果



参加者数がつかめなかったが、小学校と相談し、安心安全メールで呼びかけました。初回から 100 人を超えるこども達が来てくれて大盛況でした。悩みを抱えるこども達が来てくれていることに活動の成果を感じています。

課題/解決に向けての取り組み

フードバンクの支援物資を集め、生鮮品等は購入しています。その財源捻出のため各種補助金、寄附を募っています。

今後の展開

現在は小学生中心ですが、できる限り広報していろんな世代の人達が気軽に集える地域食堂、居場所にしていきたいと思っています。ただし、提供能力が 150 食までなので、今後の課題として検討中です。

連携団体

地域各団体へ協力を呼び掛けています。
自治協・コミュセン・青少協・消防・交通・民児協・学生ボランティアなど



問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	☎090-3017-5622（担当者氏名）飯干 哲哉	

子どもが生きられる世界(ゆりりん食堂)

活動を始めるときかけ/活動概要

実施・・・14回 1071名(子ども584名・大人487名)

弁当配布を会食形式に変更してから居場所としてのゆりりん食堂に参加したい親子が集まるようになり、予算的にも時間的にもロスがなくなった。

自宅開催から江津湖や公民館、東部地域コミュニティセンターを使用させてもらうことで活動がやりやすくなった事をこんなにも安心感があるのだと感謝の思いが溢れる。

大きなイベント

6月 子どもボランティアによる「カレーライス作り」

7月 夏祭り

8月 江津湖で遊ぼう

9月 子どもマネー教室

12月 江津湖でお餅つき・ちょっぴり遅いクリスマス

3月 お花見親睦会



重点的に取り組んだこと/成果

地域に根差した居場所としての子ども食堂を目指してきた。ひとり親家庭の小学生が子ども食堂のエプロンをつけて手伝ってくれる、親子の心の拠り所となっているなら嬉しい。

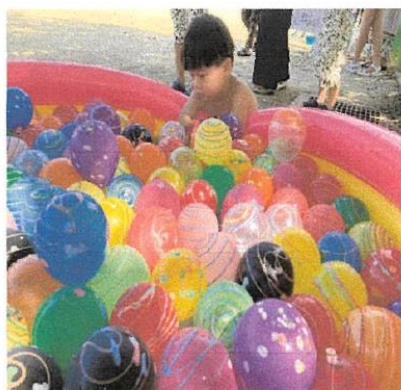
東陵高校の生徒が2人毎回ボランティアに来てくれる、子供にも思いが伝わってよい相乗効果が出ている。ここに来れば誰かが助けてくれ気にかけてくれ声をかける、そんな関わりが知らず知らずのうちにできている。

今後の展開

ここに来る時が一番癒されると口にしたママさんは「孤食な孤育て」かもしれない、見えない背景を思い惜しめない愛を相手に注ぐことが今必要な時代である。

ゆりりん食堂のテーマは「相生の心」、支えあい助け合い思いあう心の在り方、これからの未来を生きる子供たちに子ども食堂での、大人とのかかわり方 出会った友達とのかかわり方がよき土台にあるよう大人たちが手本となり、こころの在り方を示していく居場所に

なっていくよう今後も精進を続けたい。



桜木東食堂陽だまり（桜木東校区社会福祉協議会）

活動を始めるきっかけ/活動概要

桜木東食堂陽だまりの運営は、桜木東校区社会福祉協議会がしています。活動のきっかけは、社会福祉協議会の活動が具体的に校区民に貢献出来る事は何か？と、検討している時に新聞紙上に、子どもの貧困、ヤングケアラー、大人の孤立、巣ごもりの記事が多く出ていました。

子ども食堂を校区に一箇所創りたいとの記事を読んで、学校。各機関に情報収集し需要があると判断して、桜木東校区社会福祉協議会が「桜木東食堂 陽だまり」を令和4年4月に開設しました。

桜木東食堂 陽だまりは、「食」を通して、子どもから大人まで地域の方々との「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」の温かい居場所づくりを目指しています。

現在は、毎月第2日曜・12時～13時・桜木東地域コミュニティセンターに於いて・20数名のボランティアスタッフがテイクアウト形式で、カレー弁当（100食限定・子ども無料・大人100円）を提供しています。

イベントを企画して、交流を深める促進をしています。

イベントは、抽選会（景品は、米・お菓子）・季節に合わせて・アニメ映写会
・伝承昔遊び・クリスマス会（サンタと撮影会）・eスポーツ
・お年玉（ポケモンカード・コイン）プレゼント

イベントは、名前と顔を覚えて、心を開いて交流を深める環境作りを目指しています。



陽だまりの看板



陽だまり開催受付開始



受付中

重点的に取り組んだこと/成果

上記の通り「食」を通して、「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」を目指して、「食の提供・イベントを企画実施」の活動で、心を開いて交流ができる環境作りが出来そうです。

課題/解決に向けての取り組み

課題は、子どもの孤立・孤食・ヤングケアラー・ひとり親家庭・大人の巣ごもり・孤立現象は、見えてないのが現状です。「陽だまりの」活動を「テイクアウト形式から会食形式」にして、イベントを開催し、交流を深めると徐々に見えてくるのではと考えています。



調理中（コミセン調理室）



弁当仕上げ（シール貼等）



案内看板



ジャンケン大会



ジャンケン ポン！



勝って 米ゲット



割りばし鉄砲的当て



アニメ映写会



スタッフ全員サンタ帽着

今後の展開

「食」のテイクアウト形式から会食形式に移行し・イベントを企画開催して、多世代交流で、コミュニケーションづくりが出来て、互いに助け合い、明るく笑顔あふれる桜木東校区になれば幸いです。

連携団体

- ・自治会・体協・まちづくり会・公民館・青少年育成協議会・防犯協会・社協
- ・交通安全協会・桜木東地域コミュニティセンター・民生児童委員会・子ども会
- ・桜木東小学校・桜木中学校・桜木東小学校 PTA・ささえりああさひば

問い合わせ		090-3883-1185	 or 
		福本 廣人	

ポピンズ熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施・・・25回 1365名（子ども 955名・大人 410名）

月2回～3回程度の食事提供その際は子どもたちにワークを準備し、自分たちでおやつを作ったり講話を聴いたりするなど経験を積むことを意識した企画を準備した。

ワーク：かき氷に好きな蜜をかけて食べよう・甘夏、晩柑を使ってソーダジュースを作ろう・歯について勉強してデコ歯ブラシを作ろう・ピザを作ろう・夏休み宿題貯金箱をみんなで作ろう・夏祭り・音楽療法・クリスマス会・みかんを絞って酵素ジュースを飲もう・なんじゃもんじゃゲーム大会等



重点的に取り組んだこと/成果

貧困でお弁当の提供が必要な家庭のみならず、一食でも家庭の料理担当者が楽になって家族が笑顔になり子どもの笑顔につながると信じて活動している。そのことが間違いではないエピソードも子どもたちから聞くことができる。子どもの生の声を聴くことができるため今日心配なこと、嫌だったことなどを一緒に悩みながら考えることができるためみんなが様々なことを話せる場所になっている。

また、ぽぴカフェに集う子供たちに行っているワークは、失敗しても助けてくれる大人がいる場で、安心して経験を積むことで自信をつけることに役立ち、さらには学校の違いの垣根を超えた子どもたち同士のコミュニケーションを行う場ともなっている。

さらに今年度は、子どもたちの居場所としての機能に加え、貧困家庭、孤立家庭、DVからの避難家庭への対応など、多岐にわたる課題の支援を行うことができた。

引きこもりの中学生のアウトリサーチにも貢献できたことは、学校や行政の信頼を得るきっかけにもなった。以上のことから今年度の目標は達成できたと考える。



Yell つながるカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

Yell は子育て中の親への支援が子どもにも影響を与えと考え、2012 年より子育て支援をはじめ、2017 年 9 月より食を通じた支援としてこども・親子食堂を毎月 1 回開催しています。

重点的に取り組んだこと/成果

令和 5 年度は会食で、食育を取り入れた子ども親子食堂を実施しました。小さな子どもでも参加でき、食に興味を持つような体験を取り入れたり、簡単調理で親の家事の負担を減らすコツを入れたりしたメニューにしました。子どもたちは自分のエプロンをしておにぎりを作ったり、味噌を丸めたり、自分で作ったものを食べる経験を積み、母親も家では時間と心の余裕がなくてできないことも、みんなと一緒に体験し、心に余裕ができ、また、母親同士和やかに食事ができています。





課題/解決に向けての取り組み

現在は実施場所が有料で使用料がかかり、予算の都合上使用時間が短くばたばたとして終わるため、もう少し余裕があれば母親たちとの交流ができ、声を聴くことができると思う。そのためには場所の使用料をまかなえるよう、資金を調達するか、もしくは継続して実施できる固定した場所の確保ができればと思う。

今後の展開

これまで同様の活動を継続実施し、孤立しがちな小さな子どもを持つ母親・就園前の子どもたちの交流できる居場所を作る。

連携団体

一社) 熊本県子ども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、フードバンクママトコ、フードバンク県北、孤独孤立支援ネットワーク、一社) よか隊ネット熊本

問い合わせ (未記載の項目があっても構いません)

✉	☎	f or 📷
child.yell@gmail.com	09095994788 (担当者 高井)	(2) Yell (エール) Facebook

熊本市西区中島校区こども食堂まんまる

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020年8月に以下の目的で立ち上げ、コロナの影響により10月に実動開始。

●目的

- 1) こどもの居場所づくり（生活に困難を抱える支援を含む）
- 2) こどもと高齢者の孤食防止
- 3) 地域の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくこと
- 4) その過程において地域全体で子育て、人育てを可能にしていくこと、子どもたちの自己肯定力や社会性を高めること、住民の自助力、共助力を高めることをねらいとしている。

●実施日 毎月第3土曜日に開催（月に一度）

◆令和5年度の活動内容

令和5年1月から7月までは感染防止対策の観点からお弁当を配る形で開催。

しかし感染症の分類でコロナが第5類になり、感染状況も落ち着いたことから8月に会食スタイルに戻した。

◆広報方法

・こどもを対象には中島小学校 PTA の連絡網を活用し、また各保育園にポスターを掲示し、広報した。

・高齢者へは各町内において民生委員さんが参加の有無を聞き取りされた。

◆主な参加者層

小学校の児童・その兄弟姉妹・保護者・75歳以上の独居高齢者

重点的に取り組んだこと/成果

1) 1月から7月までは感染防止対策として、弁当を希望者に渡す形で実施した。各町内の民生員さんの協力のもと各町内の一人暮らしの高齢者を対象にお弁当の注文からお届けまでを担って頂いた。民生委員さんに帯同し、ボランティアスタッフが一人暮らしの高齢者の住まいと顔を把握することにも努めた。有事の際の支援に繋がると考えている。

2) 8月にお弁当から会食へ切り替えた。

それまで、お弁当を頼んでいた高齢者の継続的な参加が懸念されたが、やはり、開催場所であるコミセンから自宅が離れている町内の参加は減った。歩いてこられる近隣の高齢者、また運転ができる高齢者は引き続き参加をされている。

しかしながら、子ども達だけの参加や親子で参加される方が増えている。また、ボランティアスタッフも民生員さんはじめ、協力者が増えて、毎月12から16名ほど、スタッフがお手伝いとして参加してくれる。老若男女の活気ある居場所になっている。

3) 毎回、多くの新鮮食材の寄付を頂いている。食育の観点から栄養、好み、彩りも含め工夫をしながらメニューを考えている。

参加した子ども達も保護者も高齢者もおいしくてバランスのよい食事に喜んでいただいた。

課題/解決に向けての取り組み

ボランティアスタッフの負担増にならないことにも配慮しつつ、役割分担を行う。

今後の展開

こどもから高齢者の方の居場所になるよう引き続きボランティアスタッフや寄付提供者の理解のもと協力し合い継続していく。

連携団体

- ・ 熊本県こども食堂ネットワーク・フードバンク熊本・大海水産株式会社（魚の提供）
- ・ 有限会社矢野畜産（肉の提供）・有限会社マルイシ青果（野菜の提供）・有限会社福島商店
- ・ JA 中島支店・地域の農家さん

問い合わせ

		 or 
Mail:nakashima.manmaru2020@gmail.com	090-5323-5102 清水さとこ	https://www.facebook.com/manmarunakasima



みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

一生懸命に働いても生活がギリギリなんです・・・というご近所のひとり親家庭の方のお話を聞き、何かできる事はないかという思いが活動始めるきっかけでした。

活動の概要は、共助を必要としている人の手助け、子ども達に食に関心をもってもらい、自分の体は食べる物でできている事、食べる事の大切さを知ってもらう事を中心におき、個食防止・地域の幅広い方々の交流の場の提供などを活動の目的として活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

子ども達が「食べることは生きる事」という意識を持つように言葉かけを行い、食に興味を持たせ、実際に作れるように導き、子ども達自身が今できる範囲での知識や自信をつけて「食べる」という事を意識していけるような食に関する活動を行いました。また今年は、世界の子ども達に目を向けられるように、おにぎりアクションにも参加して、子ども達でも出来る共助を伝え、気づける力、ほかの人を思いやる気持ちや実践する力をつけてもらいました。



パソコン教室

地域のギターアンサンブルの方との交流

チーズ作り



カップ寿司作り

フードドライブ

クレープ作り

おにぎり

アクション

おにぎらず作り

いなりずし作り

お弁当



課題/解決に向けての取り組み

仕事に追われて、なかなか子ども食堂を活用できずにいるご家庭がまだたくさんあると感じています。今後もいろんな形で広報活動をしていきたいと思います。また、食品の価格高騰をうけ、食事が安さを追求するあまり、添加物や体に食がどんな影響を及ぼすかなどの知識もあまり意識していないご家庭も多いと感じています。そのような食の安全などの話もきちんと子ども達にも一緒に伝えながら、食の大切さも教えていただけたらと考えています。

今後の展開

これからも、共助の必要な方を少しでも支えていける活動を行い。多世代交流や、ひとり親家庭の支援を行っていききたいと思います。また、食の大切さを伝えながら、子ども達の生きる力を少しでも伸ばせるように活動をしていききたいと思います。

連携団体

フードバンクひのくに、キッズネットちゃとわ、たくにしきずな食堂、託麻西自治会、たくとう子ども食堂、楡木子ども地域食堂なごみ、逢桜の里

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
Fan1515minnna@gmail.com	090-5295-3170 (担当者氏名) 斎藤 直世	minnnanoshokudou

ouchi 食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

保育園、老人ホーム、障害福祉施設での栄養士の職経験をいかし、子ども達が主体となり、地域で暮らす様々な立場の皆さんが楽しみながら関わり合う場を作りたい思いで活動しています。

○月1回程…主に第三土曜日

重点的に取り組んだこと/成果

『体験型』の食体験の提供

畑で野菜収穫/竹パン/芋掘り、焼き芋/防災学習/おもちつき

○『五感』で味わう食事…

体験を通して、視たもの、触れたものが成り立ちの過程を学びながら味わえること

○『農園』を会場に取り入れた事…

常に30名以上の受け入れが可能で、自然の中で、子ども達が主体的に遊びを生み出す姿に発見が見られました。

○『地域活動』を次世代へ繋ぐ

ボランティアが必要な時は、地球の高校生、大学生、障害福祉施設の方々をお願いをしました。

○『インフォーマルなサービスの提供』

ボランティア、参加者、主催者の垣根なく、自然と様々な方々が触れ合える居場所づくり
課題/解決に向けての取り組み

・寄贈食材の循環

お預かりした食材は、活動日まで日が空いてしまう場合は、地域の福祉施設（幼稚園、保育園、障害福祉施設）の方々との連携を取り、協力のもと循環するよう努めました

今後の展開

次年度からは、助成金をいただかずに活動をする為、資金源での不安も有りますが、今後も沢山の方々に関わっていただける活動になる事を目標としています。

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	西舘枝里（担当者氏名）	

榎木子ども地域食堂なごみ

活動を始めるきっかけ/活動概要



- ・体験教室 13回 ・地域食堂 24回 ・中学生学習会 35回
 - ・小学生夏休み学習会 4回 ・子育て応援パントリー 19回
 - ・地域力UPプロジェクトイベント 3回 ・榎木小5年生食農教育 7回
- 計105回

重点的に取り組んだこと/成果

- ・施設内の環境整備、感染症対策、食中毒対策を行った。
- ・榎木小5年生とバケツ稲づくりを実施、JA熊本市と協力し食農教育を行った。
- ・防災イベントを通して地域との繋がりがりや子ども達の生きる力を養成し、災害に対する意識向上が図れた。
- ・SDGsを取り組み、子ども達の意識向上に努めた（残飯ゼロ、フードドライブ、環境学習）

課題/解決に向けての取り組み

今後も他団体や企業との連携を深め様々な社会課題に取り組み、地域コミュニティの活性化に繋げる。

（防災イベント、ワークショップ）

現状として、転入や外国籍の世帯が増えており、皆が繋がることで地域力を高め、暮らしやすい町になることを目指した活動を展開する。

今後の展開

今後も共生型コミュニティづくりの為、企業(地元企業含む)・行政・自治会等・小学校・他の団体との連携により、安心・安全な子育てしやすい町づくり・地域づくりを継続して参ります

連携団体

- ・榎木自治会 ・地元保育園 ・地元消防団 ・榎木小学校 ・民生委員 ・青少年育成協議会
- ・子育て支援センター ・JA熊本市女性部会 ・NPO法人寺子屋カフェ ・北地域部会（よかボス企業）
- ・県北子ども食堂ネットワークきつずネットちゃとわ ・フードバンクひのくに
- ・PROJECT ONE（Yellつながるカフェ、ふるさと元気食堂）
- ・COCO-DININGmama（逢桜の里、みんなの食堂、たこう地域食堂）

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Nagomisyokudou0811@gmail.com	090-8669-0452 (担当者) 渡邊和代	https://m.facebook.com/nagomi20190811/

おひさま子ども食堂(※団体ロゴへの変更、色やデザインの変更可)

活動を始めるきっかけ/活動概要

2022 年 7 月に開設。月 2 回。毎月 2 回開催（第 1 土曜日及び第 3 土曜日）。

食事の提供、と食材の提供を行っています。

コロナ禍もあり「子ども達の孤食の防止」、「居場所作りに貢献」すべく活動を始めました。食事（食材）の提供は勿論のこと、子ども達が「集う場」を提供し、安心して過ごせる場所を提供したい思いで始めました。心と体を「育む場所」となり、子ども達の健やかな成長と地域の交流に寄与すべく活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

食事等の物質的なものの提供に加え、子ども達の心・精神も満たすことができる場所であることを目指しています。単にお腹が満たされても、人間は「幸せ」というわけではありません。お腹が一杯でも、寂しく虚しい心では満たされることがありません。食事と同時に、一緒になって遊んだり、話を聞いてあげたり、心の交流があることで、子ども達が、安心して心を開いて過ごしてくれています。手作りの簡単なゲーム・絵本の読み聞かせ・手作りのワークショップ・英会話など、小さな企画をいつも取り入れるようにしています。食事以外の楽しみも増やし、「早く子ども食堂に行きたい」「帰りたくない」と言ってくれる子どもたちも増えています。同時に、保護者の皆様からも子育ての相談や様々なことをスタッフに話して下さるようになっており、保護者の方々にとっても、心の癒しの場になって行けるように努力しています。

課題/解決に向けての取り組み

子ども達のみならず大学生に至るまで「孤食」の問題があることを認識しています。この「孤食」解決に向けて利用者を「大学生」までに拡大しました。引き続きこの問題に取り組んでいく方向です。

今後の展開

近隣地域の方も気軽に参加できるような企画なども検討しています。地域への貢献できる活動ができればと思っています。

連携団体

「熊本県こども食堂ネットワーク」、「子どもから地域へ拡がれネットワーク」に参加。

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

	 or 
ohisamakumamoto@gmail.com (TEL) 096-342-5508	https://www.instagram.com/p/CwW8rAYR2Ar/?igshid=MTc4MmM1Yml2Ng==



託南みなみな広場（託麻南校区社会福祉協議会）



活動を始めるきっかけ/活動概要

- * 2021.3.19.:子ども食堂 NW に、「筍」を届ける。（その後、10 回位色々な物を届ける）
- * 2021.12.20.:MLP ルでの集まりで、むすびえの湯浅さんのプレゼンを聞く。子どもだけでなく、高齢者も参加している事、最終的に「多世代間交流」を目指している事など（社協も、高齢者だけでなく、住民皆さんの交流を目指しているのとゴールが一緒）
- * 「子ども食堂」ではなく、「地域食堂」として、スタートすることに。偶数月に実施（奇数月は〆〆を実施）
 1. とにかく、続ける事（開催場所：馬場公民館）
 2. アンケート（参加者の状況把握）を取りながら、利用者の状況を把握する事

重点的に取り組んだこと/成果

- * 初めての取組みなので、アンケートで色々なデータを取り、状況を把握し、改善点を見付ける事（馬場公民館）で実施した 1, 3 回目：参加者内に偏りがある。（1-3 町内：78.6%, 56.6% 15 歳以下：67.9%, 75.8%） $\Rightarrow$ 1. 町内に出向く「出前食堂」を行う事、2. 16 歳以上を無料にすること
- * 出前食堂-1：2023.6.24.（6 町内で実施）：七夕飾り作成し、5 本を、6 町内に設置する
- * 出前食堂-2：2023.10.29.（4, 5 町内で実施）：地元新鮮野菜と新米販売+ポッチャで交流
- * 6 回：653 食提供

課題/解決に向けての取り組み

- * 参加される方が、「何を望み」、「何を期待しているのか」、アンケートを取りながら、スタッフと連携しながら、次のステップに。

今後の展開

- * 「出前食堂」+ 「〆〆」と一緒に活動を実施する事
- * 校区社協だけでなく、各種組織をまきこむこと（校区のルーティン化したイベント）に
- * 既に 2~3 回参加されておられる方もおられます。話しができる様になったら、色々な事を確認し、次に活かしたい
- * ひとり親家庭・放課後の学童保育との連携が出来れば

連携団体

- * 子ども食堂 NW

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	☎	f or 📷
kznsk, ikd@gamil.com	080-1795-7092 (担当者氏名) 池田 一之輔	

NPO 法人寺子屋カフェくまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要



実施回数・・・27回 675名（子ども486名・大人189名）

問題を抱えている方々の支援を対象にしているため、支援が手薄にならないよう

30世帯を限定している

活動概要・・・相談窓口の常設・伴走型支援士の養成・宵カフェ（会食）の開催

支援物資の配布・子どもの体験学習の実施・ヤングケアラー、ネグレクト等の子供たちの支援・DV被害者（母子父子）等のリスタート支援

（傾聴支援・避難用シェルターの維持・各種公的機関への伴走型スポーツ支援・新住居探し引越し支援・避難用家財道具の支援

重点的に取り組んだこと/成果

「助けて」と言い合える環境作りのための会食（宵カフェ）

親同士はもちろん子ども同士でもメンタルを支えあえることが出来て成果は大きい
支援物資の配送

品物そのものの支援も大切だが、受け渡しの際の「何か、困ったことはないですか？」
というやり取りを行う方が最も大切なことと思い継続している

伴走型支援

問題を抱えた親御さんやヤングケアラーは本人に被害者としての認識がない為発見が非常に困難であったが、当会数名の理事が窓口となり当事者である子ども発見に全力投球し、広域にわたる当事者の食の欠乏を補い可能な限りの支援体制を整えることが可能となってきた。

シンママさんたちの支援

支援によって生活やメンタルが少し安定してきた方が、問題（DV被害など）を抱えているママさんたちの伴走支援してくれる方やうつ病や生活困窮のママさんたちにてを差し伸べるママさんたちが現れてきたことは頼もしく感じている。

当事者でないとわからないことに手が届く支援は大切と痛感させられる。

夜間保育との連携

預けられる方のほとんどが夜の仕事の方でコロナ渦で仕事が激減し（ネグレクトに近い）
欠食児童が急増、母親の生活の見直しと支援物資の定期配達で難を逃れる成果が残せた

当会事務所の拡張

ひとり親家庭は狭小住宅に住んでいるため、子どもの成長と共に勉強部屋がないことで母子共に追い詰められ（親子喧嘩の激化）事務所の拡張により子どもたちへの勉強スペースが提供できるようになり精神的に安定して勉強に取り組めるようになった。

今後の展開

相談窓口の常設・伴走型支援士の養成・宵カフェ（会食）の開催

支援物資の配布・子どもの体験学習の実施・ヤングケアラー、ネグレクト等の子供たちの支援・DV 被害者（母子父子）等のリスタート支援

（傾聴支援・避難用シェルターの維持・各種公的機関への伴走型スポーツ支援・新住居探し引越し支援・避難用家財道具の支援）

連携団体

さくらんぼ保育園他

【毎年恒例 イチゴ狩り 】



団体名	一般社団法人多世代 交流スペースミモザ	地域アフタースクール KANAERU	きずな	くまもと相談所
活動を始めるきっかけ	実施回数・28回 426名（子ども256名・大人170名） こども食堂を毎月2回実施 夏休み・春休みなど長期の休みには週2回食事を提供 2ヶ月に1回のフードパントリーに加え、不定期にも食料配布を行いひとり親家庭の支援を行っている	実施回数・100回以上・大型イベント1回 900名（子ども800名/大人100名） 単発的なイベントではなく、日常の中に子どもたちが遠慮せずに安心できる環境を作ればと思い、基本的にはいつでも来れる環境での活動、地域の子どもたちとの交流を行いたい	実施回数・43回 1350名 （子ども852名/大人498名） 食事の提供 物資の宅配 学習支援（英語、体験学習演奏会など） 多世代交流等	実施回数・13回 511名（子ども499名/大人12名） 参加は主に小学生、2割ほどは中学生も参加 桜木コミセンの調理室を借りて調理を行い弁当配布を実施
活動概要				
重点的に取り組んだこと	○多世代が集まるこども食堂を開催することにより 地域住民の交流が深まっている。 ○こども食堂やフードパントリーの開催により ひとり親家庭と繋がり、その結果引きこもりの 子どもがボランティアとしてこども食堂に参加 することで家を一歩出るきっかけとなった。 ○多世代が集まる子ども食堂にボランティアとして 参加することにより、精神的な成長が見られた との声を聞く。	日々の食事の提供・・・一定の成果は出ていると思う 子どもたちを中心としたイベントの開催・・・ 地域のいろんな子ども達との交流促進ができる 子ども達と地域の方々とのふれあい・・・ 広報が難しい所はあったが関わる機会を増やし一定の成果はあった。また、地域の方々からの協力、お声かけ等は大きな成果だと思う。	○学習支援 ・増井先生による楽しく学ぶ英語 体験学習・演奏会等 ・多世代交流 （料理・音楽・体操・記憶能力など） ○物資の配布 ・宅配（団体・個人による寄付等） ○食事の提供 ・弁当配布・惣菜・パン・果物・お菓子	今年は地域の福祉団体「ささえりあ あさひば」「ディホーム土屋」と協働で夏祭りを実施。自治会の方々のご理解ご協力を頂き桜木校区「うぐいす原公園」内で、アウトドア（テント）体験、缶詰み競争、射的、スライム作り、お弁当、お菓子の配布をする。地域の団体と繋がることで困難な問題を抱える子どもの発見、支援にも繋がると実感する。直接電話で「母子家庭です、子ども〇人です予約できますか?」などの問い合わせも増えてきた。
成果				
今後の課題・展開		イベント告知等（店頭でのチラシ配布 店外のPOP等）の充実	○社協・コミセンの活動への参加 ○別の地域への協力	物資の提供に留まらず、もっと支援の輪を広げたいし、そう願いたい。
連携団体	地域の小学校・コミュニティセンター 郵便局・社協・熊本市まちづくりセンター	一新小学校吹奏楽部・PTA 西山中学校ブラスバンド部 一新小学校保護者有志会	フードバンク熊本・社協・餃子の王将 隈庄校区コミセン・六田公民館 高森ブルーベリー園アソブル クラブハウスどんぐりの森	桜木コミュニティセンター ささえりあ あさひば ディホーム土屋

尾ノ上コミュニティ食堂 陽だまりの樹	縁側サロン 竹ちゃんち	NPO法人熊本YWCA なかよしクラブ	団体名
実施・40回 1519名（子ども1109名・大人410名） 尾ノ上小学校の給食のない日や平日の代休などの昼食提供・季節のイベント開催 長期休暇中の学習支援、宿題サポート・絵画指導・地域団体と連携しイベント開催 ひとり親家庭・生活困窮家庭支援・芋ほり・母子生活支援施設 きらきら星レジデンスの食材支援・学生ボランティアの受け入れ・熊本市障害者相談支援センターきらりと連携して支援活動	実施回数 48回 1121名（子ども623名・大人498名） 西区・第1・3水曜・土曜（10:00～18:00） 子育てサロン開催・昼食提供・親子の交流の場 子どもの遊び場提供・シニアサロン開催 ワークショップとお茶会・子どもの料理教室 夏休みの子どものイベント・駄菓子屋開催 フードパントリー 会食および弁当配布・働くお母さん、高齢者、一人暮らし者へのおかず配布 南区・第4水曜・土曜（10:00から14:00） 水曜・未就学児親子の遊び場提供・ワークショップ・子育て相談 土曜・駄菓子屋、射的 無料開催・働くお母さん支援 無料おかず配布	実施回数・42回 169名（子ども71名・大人98名） 外国にルーツを持つ子ども達で幼稚園の年長、小学生の低学年が参加している 【宗教的配慮】 ほとんどがイスラームホームの子ども達なのでイスラーム法に則りハラルの食事を提供している。 【学習状況】 なかよしクラブが用意したワークブックを使って国語・算数・英語などその日子ども達が行き組みたいものを学習している。	活動を始めのきっかけ 活動概要
他団体との合同イベント開催（高森夏祭り） 京塚繁栄会、自治会との合同イベント（3回） 完全会食への切り替え 応接セット（ひとり親家庭・生活困窮家庭）支援数36世帯 地域の高齢者のボランティア参加を通してその周りの方との関わりが広がり 廃棄野菜や規格外野菜の活用	子育てサロンでは未就学児（0～2歳）を持つ親子の参加が主で、同じ子育てに悩むお母さん達の交流を通じて、共に話を話すところがあったと喜ばれ毎月の開催を楽しみにされた。 子どもの食事を通して、一緒にみんなで食べる事で何でも食べてくれるようになったとの感想もあった。 西区拠点では、学童に行きたくない子どもが放課後や土曜に一人で来るようになった。 ひとり親家庭のため、働く親からの安心で助かりますとお話しを頂いた。 SSWさんからのつながりもあり関わってくれる人も増えた。	偏食があったり、日本の食事に慣れていない子供たちに内容を工夫して楽しく食に興味を持つよう働きかけていく。 フードバンクから頂いた食料をなかよしクラブ参加者他、子どものいる留学生世帯に配布している。 前年度から参加している外国にルーツのある子どもたちはひらがな、カタカナ、漢字の習熟度が上がり学年相応の教材に取り組むことができるようになった。英語でのコミュニケーションを好んでいた子どもが日本語で話すようになった。 ハラル食材で調理した日本食が食べられるようになってきた。 熊本YMCAに関わる留学生や中高校生がボランティアとして参加され、子どもたちが多様な人と関わる機会が増えた。	重点的に取り組んだこと 成果
			今後の課題・展開
		フードバンク熊本	連携団体

団体名	フードバンク熊本	TSUDOU ネットワーク
活動を始めるきっかけ	企業や一般から無料で食料提供を受付している。	こども食堂立ち上げ勉強会開催 県内各地の子ども食堂・地域食堂への寄付金、寄付 食材等の配分・各地域はハブ拠点等へ訪問を兼ねた食材持参・地域居場所作りの支援の為に基盤整理
活動概要	生活困窮者支援団体・ひとり親家庭支援団体・児童養護施設・子ども食堂等に無料で食料提供をしている	研修会、講習会、ワークショップ開催、むすびえ招聘 行政、民間企業との連携・食堂立ち上げ勉強会開催 会員食堂、食堂利用者への防災啓蒙活動実施等
重点的に取り組んだこと	熊本市子ども政策課から新たに寄贈して頂ける	県内の地方ハブ拠点に食材運搬を兼ねて出向き
成果	企業様をご紹介頂き寄贈へと繋がった。自主財源確保のために賛助会費協力の働きかけを行った結果、例年より多くの団体様に協力して頂いた。大型冷蔵・冷凍設備の設置により受入可能な食材が多様化し、生活困窮者支援団体や子ども食堂団体に寄贈することが増えた。	地方食堂が抱える課題・問題点を洗い出し ネットワーク団体・フードバンク団体として、その 問題解決をすべく事業計画に落とし込んで業務として遂行することができた。また、実際に食堂運営者の方々と直接会話することで、今まで把握できなかった意見、考えを知ることができ今後の当団体の業務に活かすことができた。 立ち上げ勉強会開催・ワークショップ開催で様々な 感謝のお言葉を頂いた。 地場企業・地方自治体と懇意になれたことで、地域 会員食堂さんに繋ぐことができ各自で寄付受け入れ サイクルエコシステムを構築することができた。
今後の課題・展開		
連携団体		行政・県内社協・イオン九州・オムロンリレーアンドデバイス・ささえりあ白川ソフトバンク・ゆめマート熊本・(株)共同ヴォルターズ熊本・熊本りんどうライオンズ クラブ・東京エレクトロン九州 他